国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

6. 4. 13
勝水

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

邯鄲

装束之覚

シテ　面邯鄲男　黒頭　白鉢巻　着付唐織
法被　羊切　クワラ　珠数　腰帯
唐團扇　カツラ桶
子方　風折　黒ニテモ　金ニテモ　着付唐織　大口　長絹
腰帯　扇

子方舞附

●来序ニテ出舞臺ヘ入リ目付柱ノ下ノ方ヘ出シテヘ向下ニ居雑物の気なやヲ訓フ●國土安全大臣来リ酒ヲツグ様ニスル扇ヒロケ右ニテウケ夫ナリニ立シテヘ行居立イル●ことゝ〳〵にいさやシテヘツグ心めくもやれ返シニ扇タヽミ大小ノ前ニテ正ヲ〳〵に出菊右乃ヒラキ花ハ伏ル左ノ袖ヲ右ニテヒロケ見さゝにも左右ト出ひくもヒラキ光〳〵かもや袖ハナシ右ヘサク廻リ盃の影乃左右打込根扇ハ上ケ返シニ大左右鄙世にも見ゝ打込ヒラキよもつきし角ヘ行左ヘ廻リワキ坐ヘ行象かもハ早坐ヨリ手上ケシテ柱ノキハヘ行くめさもクミナガラ正ヘ出菊の如ヒラキ音めハ扇左ヘトリ左廻リかゝやゝんこ右ヘ向扇肩ヘアテんもとれやうに上ヘナヂナガラ正ヘ右フミ込まれたまゝかり右ヲ引扇右ヘトリサシ角ヘ行あしらのこれハカザシ左リ廻リ元トノ目付柱ノアトヘ行左右打込下ニ居●皆きへく

ト立笛ノ上ミヨリ切戸口ヘ入ル

●来序ノトメ子方出座ニ付トヽメル事

●子方ハシテツレ大臣ハワキツレナリ

●輿舁シテ臺ヨリ下リ正面ヘ向フト二人ニテ輿サシカケシテ
ニ従ヒ正面ヘ出ルうへ人にあはれみ給ひしヨおりクトシテ下ニ
居ル時輿ヲ取リコシカキ入ルモコシカキハワキツレナリ

●うへ人とおりゐ給ひしおりと下ニ居シテ来序ニテ臺
ヘ乗リ地謡坐ノ方ヲ向キ下ニ居珠数捨テ袈裟取リ
正ヘ向ヒ安坐

●智識にこの枕かりノ左ヘカヘリ枕ヲ見ムチザシナシニツカ
ツカト臺ヘ上リ枕ヲ戴テモヨシ

●臺ヘ下リ昇リスル處皆左ノ足ヨリナリ

●マクラシテ来序ニテ臺ヘ上ルトヲロシかくて時ト云
處ニテ枕臺ヘ上ル元ノ處ニスヱ置ク　後見地謡ノ上ニ居
リ懸引スル

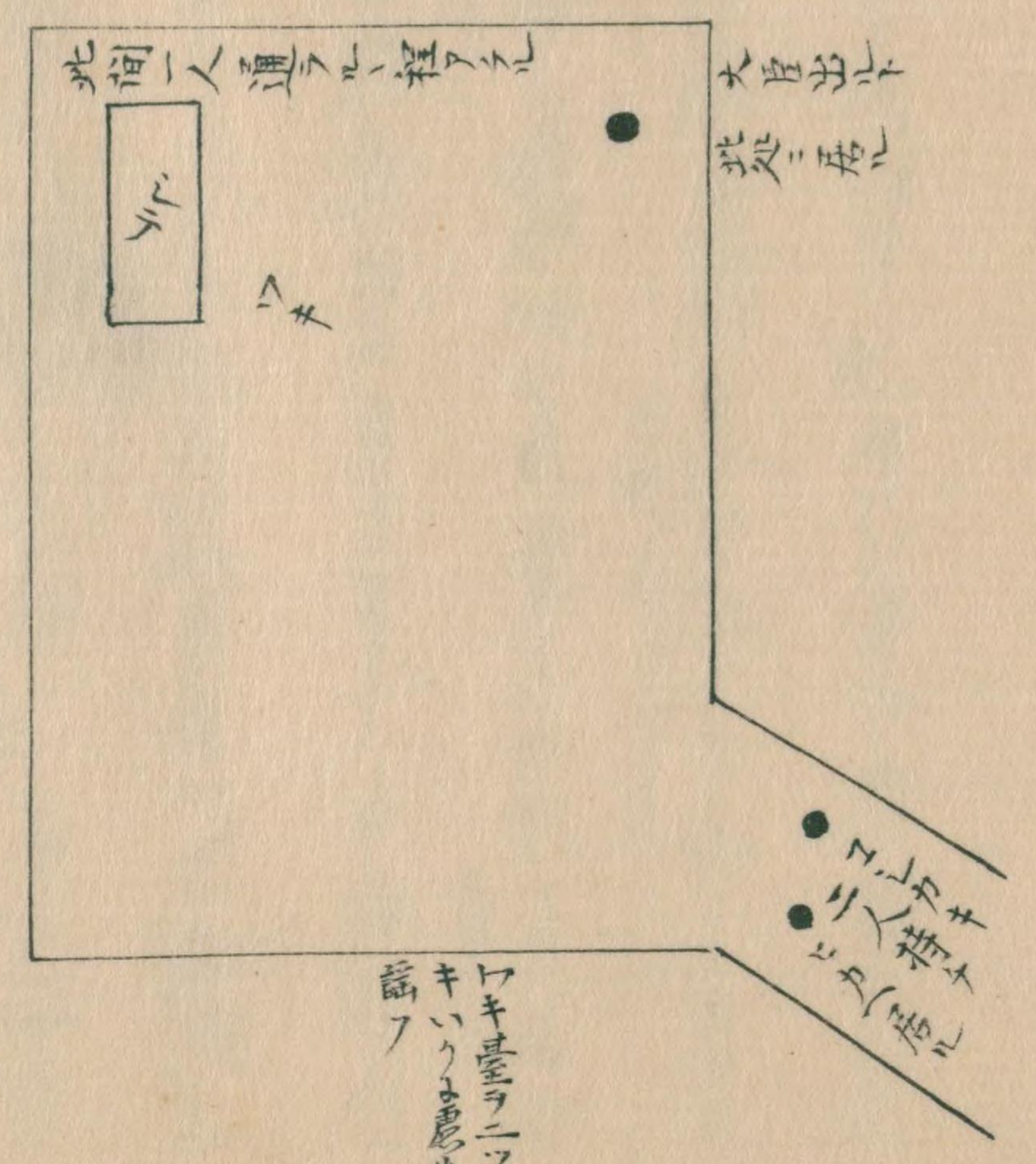
羊雛子

●時あまりヨリ初ル楽ニナリ立大小ノ前ヘ出正面向ヒ左ヒ二一
ミテタツハイ楽常ノ通リ能トチカイソラヲリ休息ナシ

●[illegible]此處羊雛子ニテハシテ謡フ

●羊雛子ノ節かくて時過ぎ程枕ハノ返シナクテ
モヨシ打込打返シハアリ舞ノ調子抜ル故多ク返
シハウタハズ

以下盧生ニ夢覚めノ處ノ圖如此



●楽蹈返ノ拍子二段ノヲロシ又ハ隅ヘ行處又ハ三段ニ掛ル
處四段ニ掛ル處凡二ケ處程蹈返ヘテヨシ

又

●春夏秋冬サシワ●萬木千草も早足ニ橋カヽリ
ヘ行●一日かト足トメ正ヘ向イ●おもしろやトユウケシニツ
●かくて舞臺ヘ入ル

雛子方坐付一大臺ノ上ヘ大宮ノセ持出地謡坐ノ前ヘ出ス但シワキ柱ヨリ三尺ホド下ゲ出ス　宮前
持出ル次ヂ二段キヽブタイノ内ヘ入シテ柱ノサキニテ正面向足トメ大小ノ方ヘムキ左右左ト足ヲツカイ
謡地次才ニ正面ヘ向

舞附

シテ次第

浮世の旅に迷ひきて夢

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

わいの（シテ）一もんのるあり（ワキ）かれあらやく
うらしゃ（シテ）左ノヒザ立両手ニザテテウツムキ心持
はらく〳〵くるくるゝ紙をあ
んもるふ（ワキ）百年のちんらくも安れて
れハ夢そう〳〵（シテ面上ケ）四十年の栄花こそ夢の如
（シテ目ヲサゲ）まハそまてあり〳〵ありとの世こそ
めもさむる四十年のちんらくもさむる
面下アンズル心持
あれハそまてあり〳〵ありとの世
面直シカヽリ右ノ方ヘサス（ワキ）ダイトコロニシテ柱ノ方ヘ行
（シテ）あ夢こそ（ワキ）〳〵（シテ）花もへハちる
左ヘ廻リ地ヲ見ル（ワキ）左ヘ廻リ地ヲ見ル（シテ）ヒラキ両手ニテ
夢をそとあら（ワキ）夢紙ハ此枕あり（シテ）夢をか
枕ニツイテ〳〵キ（ワキ）ダイヨリヲリ（シテ）柱ノ方ヘ行（シテ）柱ノキワニテ柏子
〳〵やうんの夢をそやかんうんの夢
左ヘヲリ返右ヲスヘテ（シテ）正面ニヲリ左ノ袖カヘシ柏子ヲミ入
のせそとさむるそ（ワキ）正面ニヲリ左ノ袖カヘシ柏子ヲミ入
（シテ）〳〵

（ワキ）けり

（シテ）樂ニカル處左ノ如シ

（下居正）
●ホラルヽヒヤウルロ（下ニ居ル）（下ニ居ルヲ見届ケ立ツ）（ワキ）ヲヒラキ右ノ手ヲ下ヘヲロシ）ヒヤロルラヽホヽヒヽ
（ワキ座ノ左右是ヨリ末常ノ通リ座ノ上ニテ）（ワキ）ヲヒヤロルラヽ。
三段（角ニテ幕前左ニトリ）ヒヨルリヒヤロルラヽ。
（左ヘヲリ）ヲヒヤイトヒユヤラヒヤロルラヽラヒヤトロリ
ヒユヤ（シテ柱ノキワヘユク）ヒユヤラヒヤラリヒヤヽヒヨリツロラヽ
ヒウヒユヤヒユヤラウホヽヒユイ（角ヘ行）タウヒ
ユイヒウロラリウホヽヒウ（スミ取リ左ヘヲリ）ヒヨロラルラヽラウホヽ
（シテ柱ノキワニテ正面ヒラキ）ヒヤラウリヽヲヒヤロルラヽヒヨルリヒヤロルラヽ
（ワキ正面ノ方ヘ左ノ足ヲヒシト上ニ踏上リ左右ノ手ヲ見ル方ヘヒラキテ右ノ後ロノ柱ヲモツ）
ヲヒヤイトヒユヤラヒヤロルラヽ是ヨリヒヨルリヘ返リ
（左ノ幕前ニテサシシテ柱ノ方ヘユク）
イク返モ吹返ス（少シノウチコシカケ）ヲヒヤリホウヒ
（幕ノ正面ヨリ廻リ）（シテ柱ノキワニテ小ヒラキ）ヒヤリヤヽヲヒヤラウヒヨロヽイヤリヒウロイ
（正ヘヒラキ）ヒヽヲヒヽロイヒヨヒヽヲヒヽルラヽヒウリロルラヽ是ヨリ末

常ノ樂ノ通リ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

素謡トテガイ絃ノトキ狂言ノカケ合アリコヽニ記ス

（正ヘ向ウタフ）これハちや郁郎の里ニ着て候　いまだ日ハたかく候　いそぎ茶屋へ

（謡ナガラシテ出カケ橋ガヽリノ方ヘ向イ）この処にて旅宿をとらばやと存候

ワキ　しかく（狂言言ハズシテ左ヘトリシテノ柱ノサキヘ出床几ニカヽル）　これハ旅人にて候　一夜の宿をかし候へ

しかく　是ハ忠ちくの宿にてハなく候（狂言ヘ向）

寺なり　我人ハまかり帰らんや　仏法をもねがはんや

なうせんと向し其処ニ茶の事を持て

我国の法もしらぬ者ハ　一夜の宿をも参らん（狂言ヘ向）

とこそ思ひ立て候（正面ヘムク）　しかく（狂言ヘムク）　我をもてなしハ　いろくよくぞ

しかく（正面ヘムク）　まかりハまこと　みちならせ候（立地謡坐作物ノ前ヘ向出足ヲトメ宮ノヤヲ見夫ヨリ西直シ出ダイヘノル）

●（ジキシテモヨシジキスレバアトガノヒラヨロシキ）実をりや郁郎乃（由帝十節申上ル）

又

● 目にさやけし（角ニテ又サシ廻シ）まくらとあまく（サレテ角ヘ行）花さくら（角ヘ足ツメ左ヘ扣ル笠カザス様ニシテ柱ノ方ヲ拾ニテ右足下向ツカイ下ヘ向ツカイ上ヘ向ロル）ハあきをふりて（小廻リ）ハ（左廻り）名ハあしたこく

目をまへにて

樂　市十節申上ルワザ

二段ヘカル処
ヒウヒヤヒヤヒヤウヒヤヒヤウラウルイヨヒヤウラハ
（左ノ足フミヒラキ右ノ足一寸フミ出シ打込デ別ニ手ヲ目通リヘヨセヒラク比余常ノ通リ）
ホヒヤウラウリヲヒヤロルラ

三段ヘカヽル処
ヒヤウヒヤヒヤウラウルイヨヒヤウルロハフロウ
タルラルラウラウホ
（正ヘノリ込別ニ手ヲ目通リヘヨセヒラク比余常ノ通リ）
ヒヤウラウリヲヒヤロルラ

右二所右ノ通リニテモヨシ　但シ郁郎ニ限ツテナリ

邯鄲

装束之覚

シテ　邯鄲男　黒鉢巻　黒坂　襟 花色之類　着付厚板

半切　法被　腰帯　脇　唐團扇　念珠

枕　臺掛ケ　大宮　クワラ

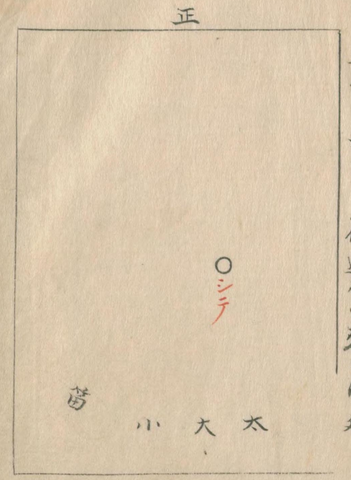
子方　ワラハ天冠　鬘　鬘帯　襟　着附箱

長絹 又唐織坪折ニモ　大口　腰帯　扇

替　邯鄲男　黒頭　黒鉢巻　襟　着付

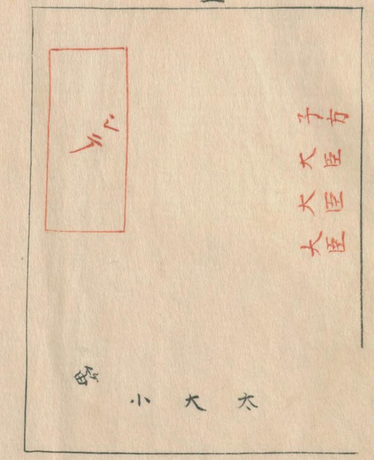
大水衣　腰帯紙子　クワラ　念珠

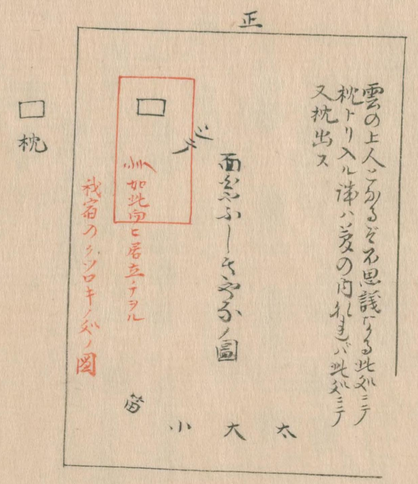
唐團扇　着附ハ無色ノ無地アテメキタル模様ヨシ嶋ハアシヽ



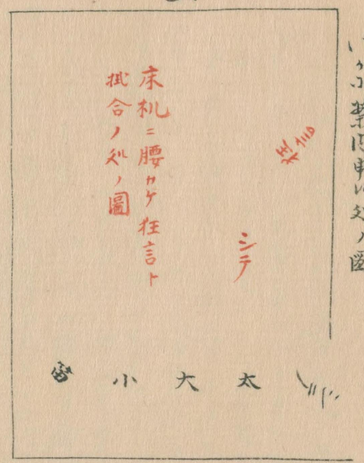
赤机ニアヽリ我人写ニ有なぐら佛道なれ取りたる処

子方大臣出兵ブ處之圖

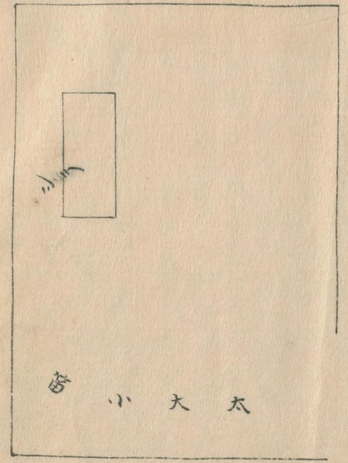




後見坐ニテ狂言へ向ヒ
いかに紫円申い処ノ圖



我宿の臺ノ上ニテクツロギ法被ノ右ノ肩ヌグ処ノ圖



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

子方舞附

●其の上人とゐるそふ〳〵きのるライ序打出スト段ヲク幕上ケ大臣ノ先ニタチ出舞臺ヘ入リ目付柱ノサシ手前ニテシテ〔向キ下ニラル笛面ノ通リナラブ●國土安全大臣立チ子方ノ前ヘ来リ酒ツクソノ時大臣シヤクニクルヲ見テ扇ニラキ右手ニテ左ノ手ソヘズウケル●常座もゐるゐる〳〵小立右ノ手手ニテ扇ヨコメ中ニアゲテモチシテノソハ〔行●まゐゐのシテノ前ニテ右ヲヒキ下ニサツキ●とゐ〳〵ふ居立チ右ノ手手ニテシテ〔酒ツキ●ゐゐもゐゐ岩の扇下ケめくもゐゐの通ヨリ扇タヽミナカラ左リ〔トリ立大小ノ前〔行正是ヨリ子方ノ舞ナレハ破タケサラリト●ゐゐもさ〔さる正〔出●常座のヒラキ●花ゐたるとを左ノ袖ヲ右ノ手ニテモチヒロケ見ス袖モツコロ左ノ手ニテ最初持タル処ヲ右ノ手ニテモチ左右〔引ハルヤフニメ見●さゐも神サシ上ゲ正〔左右ト二ヒソメ●ゐゐも神サシ下ゲ袖ヲ見ナカラヒラキ●光ゐゐゐ袖ヲモチタル右ノ手ハナシ右〔巡リ●岩の陰の左右打込●我宿の上ゲノ扇返シノ我やとの大左右ニテ出●残リテ打込ヒラキ●よゐゐ〔きく角〔行返シニ角トリ●某のゐも左〔ニハリ●ゐゐゐ〕ハワキ座ヨリ扇ノカク上ケシテ柱ノ方〔行キ扇ニテクムヤフニメ正先キ〔イデ●某ゐとヒラキの名ハ角〔行角ニテ扇左〔トリ左〔ニハリシテ柱ノキハ〔ユキ●ゐゐゐ〕シテ柱ノソバニノ扇ヲ右ノ肩〔アテ●心も時ゐゐふ正サキ〔出ナカラ扇ツハ子●よゐたゐもゐ扇右〔トリサシ角〔行カザシ左〔ニハリ直ニモトノ座〔行●常座もゐ本ノ座ニテ左右ゐ上やゐゐゐ打込下ニ居ヲシテ〔向ヲル●ゐゐきゐ〕立チ笛座ノ上ニ地謡ヒノ間ヨリ切戸口〔入ル花早

足ニスラ〳〵ト入ル

シヤベリ

狂言 かやうにさむらふものハかんたんの里に住居仕る
ものにてさむらふ 扨(?)往来の旅人へよき(?)宿を参らせ候もの
にてさむらふ 先(?)ころ(?)仙の法を行ひ給ふ御方に
御宿を参らせさむらへハ御宿の為とて邯鄲の
枕と申すを譲りてさむらふよ此枕を召(?)れて一ね(?)
まどろ(?)ミさむらへハおのうちに夢を御覧し(?)
行末(?)傳(?)の悟りを御開き(?)ある枕にてさむらふよそ
何も(?)御旅人の御着候ハゝ此方へと申さう〳〵 ●
コレヨリシテノ次第道行スンデ ● シテ 急ぐ程に是ハはや(?)
邯鄲の里に着きて候 いまた日ハ高く候へども此所に旅
宿をからばやと存じ候 いかに案内申さん 狂言 案内とハ誰(?)にて
渡りさむらふそ シテ 是ハ旅人にて候 一夜の宿を御(?)
かし候へ 狂言 やすき(?)の御事にてさむらふ(?)
こなたへ御通りさむらへ さてハ(?)此(?)邯鄲の枕を召(?)さむら
へ(?)

蜀の国の傍に呂生といへるものなり 我人間に有ながら
佛道をも祈らずたゞ茫然とあかし暮す所に楚
国の羊飛山に尊き知識のおはしますよし
承り及てハ(?)我身の一大事をもたづねばやと思ひ
立てハ 狂言 是ハ此宿にて(?)候 扨我(?)ハ往来の旅人にお宿
を参らするものにてさむらふよ先(?)とせ仙の法を
行ひ給ふ御方にお宿を参らせてさむらふハお宿の
為とてかんたんの枕を譲りてさむらふよ此枕ハ
召(?)一ねふり(?)の事と申(?)さむらへハおのれ(?)目(?)ざめてハ(?)夢を
覧し行末傳(?)の悟りを御開きある枕にてさむらふ
さむらふよこなたへ召(?)して一ねふりまどろミさむら
ふよ シテ 扨其(?)枕ハいにしへに聞(?)えたる(?)そ 狂言 何(?)迄(?)ある
大方にさむらふよ シテ さらハ立寄(?)り一睡ミんずる(?)に
くに(?) 狂言 さらハ其間(?)に粟のおいいを拵へ参らせ
ふまる(?)にてさむらふよ(?) やがて御旅人の御目覚(?)までさ
むらふよ かとる(?)粟のおいいを拵さむらふ〳〵
地 ●何(?)となるかんたんの枕の詳(?)しき(?)の夢ハさめぬる(?)
召(?)せ 狂言 いかにお旅人へ申さむらふよ粟のおいいあがれ(?)さうで

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

さてさむしろおもしろりさむしろや　呂世
夢さめんとく

舞附

・有明の月
左ヘ一足右ヘ一足直ニ打込ミ ヒラキ手廻シテ左袖カヘシ 左右シテモヨシ

・月人男の
両手下ゲ

・雲の端袖を
左ヲウケ左ノ手シヒロゲ正ヘ出テ少シ左ヲフミ込ミ左ノ 腰ヲ又シ左ノ袖ヲ目通リニツキコミ

・かさねつゝよろこびの歌を
巻込メル袖ヲ少シ下ゲ腰ヲ引立テ左ノ足ヲ少シフミ出シ 右ノ團扇ヲ左ノ袖ノ上ヘノセ夫ヨリ右ノ腰ヲ引立テ右フミ出シ 又左ノ袖カヘシウチハノ上ヘノセ左ノ足シヲ引立テ左ヲフミ出シ 拍子ニツフミ左ヨリ三足正ヘ出テノリ込ノ様ニ両手ヲカザシ ナガラ右左ト拍子ニツ
トリ ヒラキ 左手下ゲル

・あまつけく
左ノ袖カヘシ左ヲ フミ込ミ左ヲ 引角ノ上ヲ見

・月まつこともなし
れもヘバトヒラキ左ノ袖 カブリ上ヲ見テモヨシ

・春の花さけず
サシ角ヘ行キユルリト 気ヲノバシテ

・紅葉も
小廻リヨリチ 廻シシテ早ク

・雪もふりし
團カサシ角ノ上ヲ見 正ヘ面切リ左廻リ

・四季おりしもハ
サシワケ夫ヨリ左ヲ右ヘカケツク右ヘマワリ正 ヘ出臺ノ方ヘメラメラト下リ目付柱ノ方向キ 臺ニコシカケサシワケノ時左ノ袖カヘシテモヨシ
狂言来リ 臺ヲタヽキ 雨水の合ひげ できていふヲ ヒシナリルヘ ヤトヽ云

・皆きこえしと失果くかへる
正サキヨリサシ廻シテ右廻リ直ニ臺ヘ向キ枕ヘムコザシ臺ヘ上リ 左飛ビアガラズ足ハコビ臺ヘ上ル左ノ袖ヲ右ニカヽヘヨコニナルウチハ 顔ニアテ臺ヘ上リ左ノヒザツキ夫ヨリ体ヲクツシテ一メン安坐 夫ヨリ枕ヲ見ズカラダミノ横ニタヲレ子ル右左ノヒザツノヨリ 安坐ノ目ニ立ヌ様ニ手廻メ横ニ子ル安坐ヨリ横ニ子ル迄 ナリタケノ段取ノナキヤウニ目立ヌヤウニ横ニ子ル

・夢は覚めにけり
面下ヘトリ橋ガ カリノ方見タル 顔ヲ直スワ キ正ヘ向ク

・夢生まこ夢さめて
ヲキ目付ノ方ムキ右ノ足ハ内ニ左ノ足ハ外 トニメ安坐横ニ子テヲル時 ヲキル時モ気ニテヲキルガヨシカラダデヲキ テハアシヽ安坐ノ時両方ノヒザノ下ヘツクガヨシ 夢生ノ詞ニ出シトクト安坐メ気ヲシヅメテ ウタイ出ス

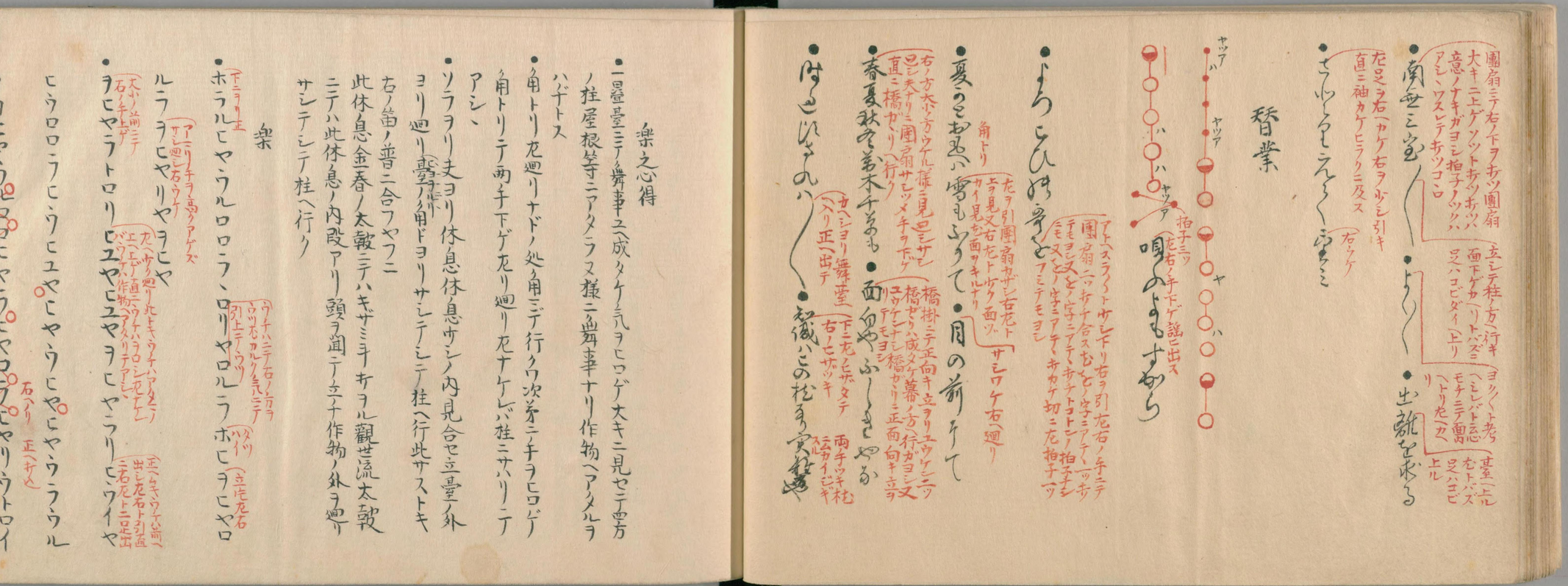
・松風の宮殿楼閣ハ
左ノ腰引付面 下ヘトリ夫ヨリ 面ヲニテ橋ガ カリノ方見ル

・常に非郷の仮の宿
作物ノ前ノ右ノ角ヲ見ル 右ハラニテ見セル心

・えうが夢や
少シタイヲソラシ左ノヒ ザ両手ニテカヽヘ立タル ヒサハ足先キ少シノ ビル方ガヨシ立スキル ハアシヽ

・栄花の宿も
左ヘ頭カタムケ 下ヲ見テ考ル心

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



團扇ニテ右ノ下ヲ打ツ團扇大キニ上ゲソツト打ツ打ツハ意ノナキガヨシ拍子ノツクハアシヽワスレテ打ツコヽロ

●南無三宝ノ

立シテ柱ノ方ヘ行キ面下ゲカヘリトバズ足ハコビダイ上リ

●よりく

ヨクヽト考ヘシレバト忘モチニテ面ヘトリ左ヘカヘリ

●出離を求る

基ヘ上ル左トバズ足ハコビ上ル

左足ヲ右ヘカケ右ヲ少シ引キ直ニ袖カケヒラクニ及ス

●さゆりもこえくゝ

右ウケ

替業

ヤツア ハ ヤツア ヤ ハ

ハ ハ ヤツア

拍子三ツ

左右ノ手下ゲ謡ニ出ス

●唄のよもすがら

アトヘスラノト少シ下リ右ヲ引左右ノ手ニテ團扇ニツ打チ合スむをノ字ニアテ一ツ打テモヨシ又をノ字ニアテ打チトコトンノ拍子ナシニモ又をノ字ニアテ打カケ切ニ左拍子一ツ

●よろこひ此事を

角トリ

左ヲ引團扇ガザシ右左ト上ヲ見又右左ト少ク面ヅカイ見ヲ面ヲキルナリ

●夏のさおもへ雪もふりて

サシワケ右ヘ廻リ

●月の前にて

右ノ方大小ノ方ウケル様ニ見回シサシ回シ夫ナリニ團扇サシツメ手ヲ下ゲ直ニ橋ガヽリヘ行ク

●春夏秋冬草木千草も

橋掛ニテ正向キ立ヲリユウケン二ツ橋ガヽリハ成タケ幕ノ方ヘ行ガヨシ又ユウケンナシ橋ガヽリニ正面向キ立ヲリテモヨシ

●面白やふしきやな

カヘシヨリ舞臺ヘ入リ正ヘ出テ

●時ハこれさのハ

下ニ左ノヒザタテ右ノヒザツキ

●御儀ハこの柱ヲ実録也

両手ツキ柱ニムカイジギスル

楽之心得

●一疊臺ニテ舞事ユヘ成タケ気ヲヒロゲ大キニ見セテ四方ノ柱屋根等ニアタラヌ様ニ舞事ナリ作物ヘアタルヲハゲトス

●角トリ左廻リナドノ処角ニテ行クワ次第ニ手ヲヒロゲ角トリテ両手下ゲ左リ廻リ左ナケレバ柱ニサハリニテアシヽ

●ソラヲリ支ヨリ休息休息ナシノ内見合セ立臺ノ外ヨリ廻リ臺ノ角ドヨリサシテシテ柱ヘ行此サストキ右ノ笛ノ普ニ合フヤフニ

此休息金春ノ太鼓ニテハキザミヨ打ヲル観世流太鼓ニテハ此休息ノ内段アリ頭ヲ聞テ立チ作物ノ外ヲ廻リサシテシテ柱ヘ行ク

楽

●ホラルヒヤウルロロラヽロリヤロルラホヒヲヒヤロルラヲヒヤリヤヲヒヤ

下ニヲリ正

ウチハニテ右ノ方ヲウツ右ノ方ヲ引上ニテウツ

タツ

立片左右

アーニリノチヲ高クアゲズサシ廻シ右ウケ

大小ノ前ニテ右ノ手上ゲ

左ヘ少ク廻リ此トキウチハアタニノ上ヘ上ゲ直ニウチハヲロシ左ナケレバウチハ作物ヘアタリテアシヽ

●ヲヒヤラトロリヒユヤヒユヤヲヒヤラリヒウイヤヒウロロラヒウヒユヤヒヤウヒヤヒヤウラウルイヨヒヤウルロロヒヤラヒヤロラヒヤリウトロイ

正ヘムキウチハ前ヘ出シ左右ト引直ニ右左ト二足出

右ヘノリ

正ヘ打込

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

又別ニウチハ前へ出シ
ヲヒヤロルラ ニホヒ ラヒヤロルラ
エノ扇
初段
ヒヨルリヒヤロルラ
両手ヲ少シ別ニ左右ニ足踏テ
左ニ三足踏テ
•ラヒヤイトヒユヤヲヒヤロルラ
行キナリニ右ノ足ヲ三足出ス
トキ左ノ手ヲ左ノ袖ヘ入レ
足ヲ三出ストキ左ノ袖ヲ出シ
袖ニテドレガラニ足出テニ足
テヒヨヒニラキ
ヒユヤヲヒヤロルラ ラヒヤラリヒライヤヒラロラヒユヒヤラ
ヒヤラウルイヨヒヤラウホ ヒヤラウラ
両手ヒゲ別ニ左ノ足ヲミニラキナガラノビテ右ノ手ヒラ
右ノ足ツメテワキ柱ヘ両キヲウケ左ニ寸持ケ右ヲカケテニ
リヲヒヤロルラ ラリ直シ
三段
ヒヨルリヒヤロルラ
ノビテ正ヘリ込
•ラロラウメラウルララウラホヒヤラウラウリ
ノビテ両手ヒゲ目付柱ノ方ヘ右左ト足出ガラ左ノ足
サシテミ込左ノ足ヲサシ入レ左ニテ扇ヲラニ持ケ
ヲヒヤロルラ
内ヘトリ左ヲサシテミニラキ右ノ足左ヘカケテシテ柱ノ方向キ
左ヲサシテミニラキ体ヲノバシテヲヲノバシテシテ柱ノ方ヘ行
三段
ヒヨルリヒヤロルラヲヒヤイトヒユヤヲヒヤロルラ
シテ柱ノキハニテ内ヘコメテカラ
内トリ加メユルヤカニアトキリト
ミワリガリ
ヲヒヤラトロリヒユヤヒユヤヲヒヤラリヒラ
左右トヒキテガラ柏子ミツガツ
シカト見
イヤヒヨリツロラヒラウヒユヤヒラウラウホ
左ヘカケルヤウニシテ左ヲラコメテ筒テリ身ヲ
直シテガラ正ツガツカト出
ヒユイノメラメラヒユイヒラリラホ

ガラス使用

ヒラウヒヨロラルラ、ワラ、ワホヒヤラウラリ
シテ柱ノキハニテ
正ヘ向キヒラキ
ヲヒヤロルラヒヨルリヒヤロルラヲヒヤラウラリヒヤロルラ
ワキ正面ノ方ヘ
左ノ足ヲラウシ
エハゴ上リ下ラ
右左ト見又右左トサノ向ツカイ見ル
左ノチニテ後ノ柱ヲモツヲドロキ左ル
ヒルキナリコレヲヘヲヲニテハアレド
トヒユヤヲヒヤロルラ
コレヨリ地謡ニムキコシヨケサシ
ノ間見合セ是ヲ休息ト云
見ヨリヒヨルリヘ返リ
サノ間コレカラ一畳ノ
正面廻リ廻リ
イノ返セ吹キ返ス
左ノワチハニテ左キヲナシ廻シ
ヒヨルリヒヤロルラヲヒヤイトヒユヤヲヒヤロルラ
シテ柱ノ方ヘ行キ
ヲヒヤリホラノ〜ヒヤリヤラヒヤラウヒヨロリ
シテ柱ノキハ
ニテ小廻リ
イヤリヒラロイラロイヒヨラルララウリ
正ヒラキ
ロルラ
此末常ノ廻リ幽玄ケ太鼓望ニテ
廻リ下リ上ゲいつ返ラト謡ニ出ス

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

●東ニ三十余丈ニ方角悪敷後ロニアタレバ不向ヤハリ正ノ左西トテモ同様ニテ一方方角後ロニアタレバ両方ナガラ向ハズ正

●耶鄭大臣一人ニテモ二人ニテモ三人ニテモ四人ヨリハ場所狭クル故不仕ル段市十郎申上ル

シテ舞附

口明キ狂言出夫ヨリ次第ニ段聞ニノ上右ウケテ出ル又ウケズ臣シテ狂サキニテ足トメ左ヘトリ大小方ヘ向三足ツメトメ説

地次第正面

第二字 深草の旅にまよひそこくし夏野をいつ

と定めん

地次第ニ正

サシ 是ハ蜀の国の州にいらに無生

といつるものなれ我人間に有なから仏道を

も願ひたく忙然とおかし夢にもかゝる

右シウケ

まことや楚国のやうひさんに出さき知識の

ましまれよし義及ぶれ程に身の一大事をも

正

二足ツメ両手前ヘ合せ折切ニ左右ト足ヲ両手サケ身直シ

得ずや此思ひ此今やうひさんへとゝ名ハ

此ニ到し国を西路の疎に尋ぬし山又尋

右ウケ（折切ヨリ左ヘ二三足出

まを越ゆをハそことしもなき旅衣野の道山にれ

足トメ内ヘトリ左ヘトリ大小方ヘ三足ツメ

里等て名にのゝ望し耶鄭の里にもすやうに忘

小急く（トメ）　正

シテ　急ぎ候程に是ハはや邯鄲の里に（左ヨリ三足出右ヘ正面ヘカヽリ後見出シテ橋掛リノ方向キ）

着きて候いまだ日ハ高く候へども此所に旅宿せう

ずるにて候（狂言ヘ向キいふクホト）（ウタフ）いかに案内申候　●狂言詞●　シテ（狂言ヘ）是ハ旅人にて

候一夜の宿を御かし候へ　●狂言詞●（太鼓前ヘ行面ノ通リ正面立居狂言床机持来リコシカケル）　シテ（狂言ヘ向キ）是ハ蜀の

国の傍に盧生といへるものなり我人間に生なが

ら佛道をも願はず唯茫然と明かし

暮す所に楚国の羊飛山に尊き知

識のましますよし承り候程に

身の一大事をも尋ねんと思ひ立ちて候　正

●狂言詞●　シテ（狂言ヘ向ク）さてその枕ハいづくに候ぞ

●狂言詞●

シテ　さらばこの枕にて一眠見う（正直シナカラ立正サキヘ出作物ヘ向イ屋根ヲ見夫ヨリ其堂ヲ見ヅカ〳〵ト其堂ソバヘ行上ヘアガリ正向下居）

（立右ノ膝ツキマクラヲ見テ）ずるにて候　●狂言詞●　シテ詞　さて〳〵ハ是なる

がきゝおよびしかんたんのまくら

なるぞやあはれハ身をしるよすがいづくの世（向ヲ見下ニトクト片ヒザ立テ）

れおもろくに夢のつげあれあるらんと（立テ）（枕ヲ見）

なる迄し

上哥（右ウケ）一むらさめのあま

やどり（右ヲシリキ西ノ方ヲ見ル西ノ方後ロニアタレバ一むら雨ト右ウケノ日ハまだ西ノ方見ル）日ハまだのこる中宿に

かりねの夢を見るやとかんたんの（左ノヒザ前ヘ出シ少シヒトヘ身ニナリ一ハイニ居立ノビアガリ上ヨリ枕ヲ見テ袖ヲ右ニアヘ体ヲクヅレ且安坐夫ヨリ枕ヲ見テカラダヲ横ニタヲレ床ル團扇両手ニテ持額ニアテル体ヲクヅスヨリ安坐ノ目ニ立ヌヤフニ手廻シシテ横ニ寐ル安坐ヨリ横ニ寐ルニテナリノチ段取ノナキヤフニ目立ヌヤフニ横ニ寝ル）

まくらにふしにけり（ワキ来リ其堂ヲタヽク早クシテル安坐シテ目付柱ノ方向居）

ワキ詞　いか

十年の歡樂も至位ありなれ
ば見へまゐらせ候ハ何事
も一炊の夢 南無三寶〻
月
よく〻おもへは出離をもとむる
知識をはまつらなりが実あり
ゆゑや邪鄭乃きよつのりかゝや
かん半ん乃長夕の世うとさとり
えらぐ皇ミかなへて御りきを

四十九 邪鄭

浮世乃様にまゐらひさらぐ夢
語といふ川ゆゑ定めむ 是ハ蜀乃
ゆゑ小のかゝりしに恵生といふ
者なりが我人間にあるなりし仏道
とも願いもだ左ハ恫悉とあり當
しきりなりまことや我国のや
うひさんに貴き知識のまし海
しよりまゐらせ候ことに分の一天
まとも為しやゆゑ思ひ作と在
うひさんへゆゑ忠の 名もとゝ別し
国と雲語乃跡にあんらぐ
ゞ又屋まと越ゆきハそこらも

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

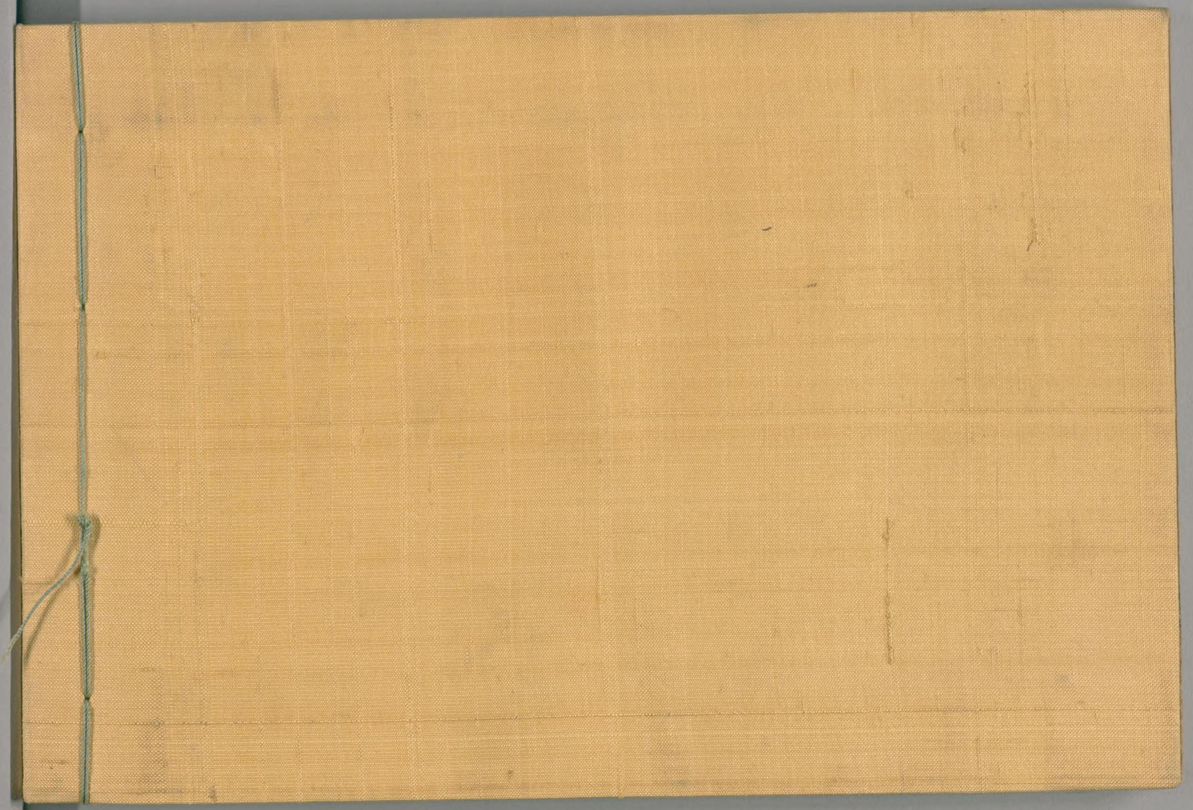
ガラス使用

十年の歓楽も王位にな
れは是まてなりけに何事
も一炊の夢　南無三宝々々
円
よくよく思へは出離を求むる
知識はこのまくらなり
けにありかたや邯鄲の
夢の世そと悟り得て
望かなへて帰りけり

正西へヒラキ　左ノ袖カヘシ拍子フミ入

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用